

天文学とプラネタリウム

第94回



今月のお題

天文お守り

新しい種類の活動を計画中、近日ご報告！



天ブラが受験戦争に参加したらどうなるか、そんな感じの話です。



www.tenpla.net

高梨直紘 (東京大学)
平松正顕 (国立天文台ALMA推進室)

受験シーズン真っ盛り。街中を歩けば、そこから辺中が受験生です。私にも受験の思い出がありますが、期待と不安が入り交じった落ち着かない気分になるもの…だった気がします。こういった時に私たちを助けてくれるもののひとつは、お守りでしょう。毎年この時期になると、さまざまなアイデアに基づいた、しゃれっ気のある受験お守りがお目見えします。この熱い受験戦争に、私たち天ブラも便乗しなくてよいのか？私たちがでないと思いつかない、天文な受験グッズを開発すべきだ！というわけで、ちょっと考えてみました。

まず一番にプッシュしたいのは、やはり不落のお守り。これはもう単純、見上げればそこにあるお月さまのお守りしかないでしょう。かのニュートンも、なぜ月は落ちないのかを考えて、万有引力の存在に思い至ったというのは有名なお話。なんとなく学問の香りもして、受験に効きそうな感じです。ニュートンに限らず、ガリレオとか過去の偉人たちは皆、お月さまを眺めてきたのかと思うと、なにやら彼らと同じ土俵に上がった気がしちゃいそうです。これくらい

楽天的になれば、合格間違いない！

さて、C判定とか、微妙な立ち位置の受験生にお勧めしたいのは、ブラックホール守り。ご存じの通り、ブラックホールはなんでも吸い込んでしまう、反則技のような存在。こんなもの近くにいったら、すぐに落ち込んでしまうのでは…と思われる方も多いかと思いますが、ご安心下さい。ある程度の速度を持った物体は、直線的にブラックホールに向かって飛んでいかない限り、なかなか落ち込まないのです。だんだんブラックホールに向かって近づき、速度も増して危ない！と思った瞬間に、くるっと向きを変えて脱出する。そんな感じの運動をします。落ちそうで落ちないお守り。長い時間が経つと、最終的には落ちるんですけどね。

しかし、そもそも、落ちるとか落ちないとか、そんな事は人生にとって大事でしょうか。もちろん、大事ではないとは言いませんが、人生を悲観するほどの大事でないのも、また事実です。そんなわけで、E判定とか、厳しい立ち位置の受験生にはこれ、隕石守り。宇宙空間には大小さまざまな天体が漂っていますが、それが地球に飛び込んできて、燃え尽きずに地表に達した

ものを隕石と呼びます。地球から見れば、宇宙から落ちてきた石。秒速数十 km という猛烈な速度で落ちてきたにも関わらず、彼らは落ちてもぜんぜん平気。むしろ、逆に多くの人によって求められる存在でもあります。落ちたってぜんぜん平気お守り。うーん、アグレッシブ。

それでも納得いかない人に勧めたいのは、相対性理論お守り。アインシュタインは言いました。自由落下するエレベーターの中に乗った時に目をつぶってみなさい、と（エレベーターと言ったかは不明）。あなたが下に向かって落ちているのか、それとも前に向かって加速しているのかは、区別がつかますか？つかないでしょう。全ては相対的に捉えるべきなのです。受験に落ちた？いやいや、そうではない。受かってしまった人では過ごせない、貴重な時間を得たのです。ユニークな人生経験を積みなさい、そういう天啓です。そういう意味を込めて、そうと渡してあげましょう。落ちたんじゃない、加速しているんだお守り。

どれも相手を見て渡さないといけなような気がしますが、大宇宙のエネルギーが詰まったお守り、靈験灼かなはずです。ぜひ商品化を。